

## Referee DUTY (20210901)

### ■九州バスケットボール宣言■

我々は、あらゆる暴力の根絶はもちろんのこと、人間性の尊重そしてフェアプレーの精神に基づき、指導者・選手・審判・観客が一体となって、真の強さを求めて行くことを宣言します。

#### 1. 審判アサイン(割当)通知

##### 1) アサイン確認

- ・2週間前を目処にアサイン通知を行う。
- ・通知後、速やかに割当担当者に審判可能か不可能かの確認(メールまたはフォーム)を返信する。
  - \* 審判アサインは口外(転送やSNSへのアップロード等)しない。
  - \* 返信がない場合は不可能として割当を変更し、今後の割当や更新を認めない。
  - \* 急な体調不良や怪我等があった場合は速やかに連絡をする。

#### 2. ゲーム前

##### 1) 会場到着

- ・担当ゲームの60分前まで
  - \* 遅れる場合は、必ず連絡すること(意図して遅れる場合は今後の割当や更新を認めない)
  - \* 割当責任者より集合の指示がある場合はそれに従うこと
  - \* 帯同審判の場合は、ゲーム後速やかに審判業務に移ること

##### 2) プレゲームカンファレンス

- ・クルーチーフを中心に行う。【マニュアルブック参照】
  - メカニクスの共通理解、ルールの確認、担当チームの分析や勝敗(得失点)などの分析を行う。
  - \* インストラクターも同席する場合がある。
  - \* 他の方は審判控室で配慮すること

##### 3) コートインスペクション

- ・ゲーム開始10分前(前ゲーム終了後)に行う。(第1試合は開始15分前まで)
- ・試合でダンクシュート等あった場合はリング・バックボードの点検行う。
- ・ブザー等は毎試合確認した方がよい。ボール、TO器具、時計、リング、ブザー、ベンチエリア、ショットクロックの位置などの確認
- ・TO、コミッショナーなどと確認
- ・ゲーム進行の確認(紹介アナウンスなど)

##### 4) ゲーム前、ハーフタイム中、ゲーム後

- ・選手・コーチ・チーム関係者との接触を極力避ける。(ゲームの前後は挨拶程度にとどめること)

#### 3. ゲーム中

##### 1) ゲーム開始時刻

- ・クルーは、ゲーム開始10分前(前ゲーム終了後)にコートに出ること。

##### 2) タイムアウト間

- ・ゲームが再開されるコート側のオポジットサイド(コーナー付近)またはゴール下(コーナー付近に得点表示機器がある場合)で待機すること。(観客がコートサイドにいる場合)
- ・40秒でチームベンチ付近に移動し、50秒(1回目のブザー)でプレーヤーをコートへ、60秒(2回目のブザー)で試合開始する。

##### 3) ハーフタイム

- ・クルーは5分前を目処にオポジットサイドで待機する。
- ・審判の判定に対する質問に対して基本的にクルーは対応しないが、必要なコミュニケーションの場合、両チームに不公平な状況にならないように配慮し対応する場合もある。ただし、長く話をすべきではない。

##### 4) ゲーム終了

- ・EOQ・EOGのプレイに対しては、クルーとして細心の注意を払うこと。
- ・ゲーム終了後のチームからの質問等についてはできるだけ避け、速やかに退場する。(ディスカッションしない)

- ・ゲーム後のチームからの質問等について、確認程度の簡単な内容、また、審判員と共有すべき事柄であった場合、割当担当者か県審判委員会ダイレクターが対応する。

#### 5) その他

- ・クルーメンバーの体調確認や安全管理について、クルーチーフを中心に相互確認をすること。
- ・ゲーム中に怪我や体調不良がある場合は、交代を遠慮なく申し出ること。
  - \* 周りの方で審判の異変に気づいた方は、遠慮なく担当審判と確認して、会場の審判責任者へ報告し、交代を進めてください。審判責任者がいない場合も交代をすすめて構いません。

### 4. ゲーム後

#### 1) ポストゲームカンファレンス

- ・クルーチーフを中心に行い、インストラクターがいる場合もクルーチーフがイニシアチブをとって進行し、客観的な意見をいただき自身の向上に役立てる。
- ・できれば映像を使用して行い、基本的なメカやマニュアル、ケースなどの共通理解を行うようにしてください。(判定だけのミーティングにならないように)
- ・審判員の研修のために、他の審判の聴講を認める(質問等可能)。他の方もミーティングに参加し、積極的に意見を述べましょう。
- ・評価シート「JBA Evaluation Sheet list」参照
- \* 自己の審判技術向上のために IGR(自己分析：形式自由)を書くことを勧める。
- \* IGR を県審判委員会ダイレクターに見ていただくことも可能である。

#### 2) ゲーム終了後の報告について

##### ○緊急時(電話報告)

- ・各ゲームにおいて暴力・危険行為や懲罰に抵触すると認識できる内容、通常とは異なる事象、各方面から問い合わせがあると認識できるケースが生じた場合は、クルーチーフは、ゲーム後速やかに割当責任者(県審判委員会ダイレクター)へその状況を報告すること。
  - 例：ディスクオリアフライングファイル(DQ)、ファイティング、また通常では起こらないケースや各チームからすぐに問い合わせがくると考えられるミス(処置の間違い)等
- ・インテグリティにおける TF も報告すること。

\* 報告 Google フォーム：<https://forms.gle/nijJkQXYxxGVmZTJ6>

##### ○共有事項の確認(ショートメールまたはメール、電話も可能)

- ・全体で共有が必要だと思われるケースや県審判委員会へ質問のあると思われるケース
- ・その他、報告や共有が必要だと感じたケースについても、割当責任者(県審判委員会ダイレクター)へ報告する。
- \* ルール・メカニクス・プレイコーリングガイドラインなど
- ・共有に関しては、県審判委員会ダイレクターが県審判委員会ホームページまたは Team JBA の一斉メールで回答する。

##### ○報告先(県審判委員会：以下の①～③のいずれかにご連絡ください。)

①割当責任者(県審判委員会ダイレクター)：寺田祥(TEL 090-4516-6738)

②アシスタントダイレクター 兼 審判セクションマネジャー：松永雄平(TEL 080-1651-4573)

③審判セクションアシスタントマネジャー：山口勝真(TEL 080-1735-2761)

※地区協会主催大会においては、地区審判長が報告先となる。

その場合、報告を受けた地区審判長は、必ず県審判委員会ダイレクターに報告すること。

\* 県審判委員会ダイレクターが、担当審判に対して聞き取り調査を行う場合もある。

\* 県審判委員会ダイレクターは、県協会規律委員会や競技運営部シニアダイレクターに報告する義務がある。

### 5. その他

#### 1) IGR(Individual Game Report 自己分析レポート)

- ・あくまでも、審判技術向上のための1つの取り組みです。強制ではありません。上級審判を目指す場合には取り組むことをお勧めします。
- ・各自、映像を見返しながらゲームという商品、審判としての自分という商品価値を高めるために取り組むものです。
- ・気になったケース(プラス面も修正が必要な点も)をそのケースが起きた時間と共に入力し、より具体的に取り組み、課題を見つけることが成長への一番の近道だと認識して取り組んでみてください。特にプレゼンテーションは必ず見直すようにしてください。
- ・評価シート「JBA Evaluation Sheet list」参照